

Free Style

インタビュー

今回は、男女共同参画の推進を目的に田原市で活動する「女性会議ウイト WIT」会長 森下静子さんにお話を伺いました。

～インタビュー内容～

- ① 最近注目していること
- ② 経済、政治分野でジェンダーギャップを縮めることができない原因は何だと思いませんか？
- ③ 市民の皆さんへのメッセージ

① 最近、ニュースで「SDGs」という言葉を耳にする機会が多くなりました。SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2030年までに世界で解決を目指す17の目標のことです。



この目標は、環境・教育・経済などのさまざまな分野から構成されていて、その中のひとつには、「ジェンダー平等を実現しよう」という目標が掲げられています。ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された男女のらしさや役割の性別」を意味します。

日本のジェンダー平等の状況を知るために、各国の男女格差を示す「ジェンダーギャップ指数」を見てみると、日本はなんと153カ国中121位となりました。(表1) 指数というのは男性を1として平等であれば指数1となります。ちなみに平成30年のジェンダーギャップ指数で、日本は149か国中110位だったので、残念ながら日本はジェンダー平等が進んでいるとは言えません。

この統計は、経済・政治・教育・健康の4つの分野のデータ(表2)から作成されていますが、教育と健康の分野では、比較的平等であることが分かる一方で、経済、政治の分野の格差が大きいことがうかがえます。



② 男女雇用機会均等法や男女共同参画基本法などの法律が整えられていることはジェンダー平等を実現するための大きな推進力となる一方で、「男女のらしさ」をつくってきた慣習や人々の意識が「気づかないまま」にジェンダー平等推進を妨げていると考えられます。つまり「仕組みづくり」と「意識改革」の両輪があってこそ、ジェンダー平等が進んでいくのです。

順位	国名	指数
1位	アイスランド	0.877
2位	ノルウェー	0.842
3位	フィンランド	0.832
4位	スウェーデン	0.82
5位	ニカラグア	0.804
21位	英国	0.767
53位	米国	0.724
106位	中国	0.676
108位	韓国	0.672
121位	日本	0.652

表1:ジェンダーギャップ指数 スコアと順位(令和元年12月)

分野	指数(順位)
経済	0.598 (115位)
政治	0.049 (144位)
教育	0.983 (91位)
健康	0.979 (40位)

表2:日本の各分野におけるスコアと順位

意識改革のためには、当たり前(常識)の中にある問題点に「気づいて」「学んで」「考えて」「変革していく」という地道かつ勇気ある作業が必要となります。ウイトでは、そんな活動を18年間続けています。

③ ジェンダー平等を実現しよう!と聞くと、どのように感じますか? 「自分にはあんまり関係ない」と思っている方々が実はキーマンで重要になります。ぜひ日々の暮らしの中で「気づいて」「学んで」「考えて」みていただきたいと思います。

ジェンダー平等が実現されることで誰もが尊重され、一人一人が自分らしく輝くことのできる生き生きとした社会を作っていくことができます。そんな田原市を私たちでつくっていきませんか!